農業農村整備

情報センターだより

2021.9No.65

Contents

■ 我が社の宝
└ ㈱明興テクノス 代表取締役社長　山ノ内 元治 …… 1

■ 未来を担う Next☆runner
└ 鹿児島土木設計㈱　福村 紗弓 …… 5

■ 政策情報
└ 令和4年度 農業農村整備事業予算概算要求 …… 8

■ 情報センター活動
├ 令和2年度 理事会を開催 …… 13
├ 第30回通常総会を開催 …… 13
├ 令和3年度 農整マスター塾を開催 …… 17
├ 令和4年度 農業農村整備事業の施策等に関する政策提案活動 …… 22
├ 令和3年度 県農業農村整備事業技術発表会を開催 …… 25
└ 「運営検討委員会」設置及び第1回委員会開催について …… 26

■ お知らせ
├ 「第30回かごしまフォト農美展」展覧会の開催について …… 29
└ 農業農村整備事業の積算に係る県独自基準の改定について（通知） …… 29

■ 編集後記 …… 29

表紙写真:第29回かごしまフォト農美展　入選
木元 邦義「ソラマメの株分け」　撮影場所:指宿市山川

未来を担う Next☆runner

鹿児島土木設計株式会社　福村 紗弓（さゆみ）さん

「未来を担う　Next☆runner」では、建設業やコンサルタントで働く若手技術者を紹介しています。今回は、鹿児島市東開町に本社を置く鹿児島土木設計㈱（篠原誠代表取締役社長）、技術部第1課の福村紗弓さん（26歳）にお話を伺いました。

本社前にて

熊本地震を体験

幼い頃から手先が器用で工作が得意、ものづくりが大好きだった福村さんは、熊本市の崇城大学工学部建築学科へ進学。入学当初は、誰もが心地よく過ごせる共有スペースをメインとした建築物を設計しており、建築系の仕事に就くことしか考えていなかったそうだ。

そんな中、平成28年4月、大学4年生の時に熊本地震で被災した。実家のある鹿児島市へ避難する際に、被災後の道路の悲惨さや、テントを張って雨風をしのいでいる人たちを目の当たりにした。この経験を基に、大学の卒業設計では大きな災害に備えたコミュニティのあるまちづくりをテーマとした建築設計・計画を行う中で、自分もまちづくりに関わりたいという思いがふつふつと湧き、建設コンサルタント業界に興味が出てきた頃、鹿児島市であった企業説明会の最後の方で何気なく説明を聞きに行ったのが鹿児島土木設計だった。

社名からして「お堅い会社」が第一印象だったが、その後、単独の説明会に参加し「受けてみよう」と思い、平成29年に入社し、現在5年目になる。

担当の重圧

入社した年は通常より多く受注があり、社会人1年目の5月から、早速、担当を任された。土木系は初めてで、図面の見方も測量機械の扱い方も分からない状態だったが、とにかく打合せではメモをたくさん取り、分からなかったところは移動時に上司に聞き、なんとか理解していった。内容をすべて理解できていない状態での電話応対やメールのやり取りは、とても不安で仕方なかった。その後も「もう少し勉強してから担当として設計したい」という願望は叶うはずもなく、それからも多くの業務を担当した。

中でも、第9号県単道路整備（改良）測量設計委託（寺野外工区）の法面崩落現場は、一番大変だった業務だ。高低差40mもある山の中で、ロープを使って降りなければ行けないような現場だった。おまけに暑い中の業務だったため、結構キツかったそうだ。

しかし、早めにこのような経験をしたおかげで、今ではちょっとしたことなら、「辛い、大変だ」と思うこともなく、仕事をこなすことができているため、経験値アップに繋がっていると感じている。

現在は、道路と法面の設計や排水計画を主に行っており、道路は、農道や市道、都市計画道路、工事用道路等、さまざまな道路の設計業務に従事している。

すべてはお客様のために

鹿児島土木設計の社訓の一つに「自ら創造と熱意、誠意をつくすこと」という言葉がある。

一、会社は信用を第一とする。
一、自ら創造と熱意、誠意をつくすこと。
一、常に技術の向上にはげむこと。
一、自分の仕事は責任を持つこと。
一、人をねたまず和をはかること。
一、交通安全を守り事故をしないこと。

社訓（同社ホームページより）

入社当初の社内研修で、仕事をする上で欠かせないものが、「熱意」・「誠意」・「創意」であることを学んだ。「情熱にあふれて、誠実に一生懸命に、創意工夫を凝らすことが、お客様の要望を満たすことにもなり技術力の向上にも繋がるが、何より自分を高めることができると思い、日々仕事に励んでいる」と熱く語ってくれた。

だから、設計に携わった公園や農道が完成したときは、とても嬉しかった。現場が遠くなかなか見に行くことができない場所もあるが、同僚が近くを通りかかった際に「あの現場、完成してたよ」と教えてくれるため、「よかった、ちゃんと工事が無事に終わったんだ」と、安堵する。ちょっと遠いけれど旅行がてら今度見に行こう、という楽しみも増えてきた。やはり、形に残るのは嬉しいと目を細める。

仕切弁調査

お客様の要望を満たすためにも、仕事と休みのメリハリは大事だ。社員同士は、程よい距離感を保っている落ち着いた職場で、仕事の時間は静かに黙々と、休み時間や休日はしっかり休む。プライベートに無理に深く関わらず、しかし仕事での話は真摯に向き合って会話をする。働きやすく意見の言いやすい環境下で働ける職場だと思う。上司などに相談すると必ず答えてくれ、アドバイスもしてくれる。

日々の業務の中で気をつけているのは、社会人として基本的なことだが、報告書やメールは誤字・脱字がないよう何度も確認を怠らない。すごく細かいなとは思うが、心根が心配性なので仕方ないと話す。

土木のサービス業

建設コンサルタント業務は、「土木に関するサービス業」と語る。ただ測量をしたり、ただ調査をしたり、ただ設計を行うだけではなくて、発注者へ技術力を提供するサービス業であると上司に教わった。確かに「ここに道路ができれば、どんな設計でもいい」ということは絶対にない。「地元の不満を解消し、かつ経済的な道路をどう設計したらよいか」という発注者の質問に対して、最適な線形や工法を提案することが我々の仕事である。このため、現場の状況をしっかり確認し、常に勉強し続け、技術的な知識を高めていくことが重要だと思っている。

入社前はこのような重要なことに気づいていなかった。だから、自分が想像していた建設コンサルタント業は、測量と設計を行うだけで、街中で見るような工事現場には直接関わることは、まず、ないだろうと思っていた。しかし、調査のために必要な試掘の管理等を実施するなど、まさか自分がカラーコーンで規制された区域内で仕事をするとは思ってもいなかった。

心配性な性分

「私は超が付くほどの心配性」と笑う。打合せや納品の際は、必ず2日前には物を揃え、前日はチェック修正のみを行うことにしている。前日になって、「この資料が足りない」「図面の出力が間に合わない」と焦りたくないため、予定より早く作業を終わらせることが多いそうだ。

まだ完璧な技術力が身についていないため、勘違いによる凡ミスをすることがある。そんな時も、早く取り掛かることで、上司にチェックしてもらう時間が確保できるため、案外この性格に助けられている面もある。

休日は掃除、洗濯といった家事の他は家でゆっくりすることが多いが、昨年結婚した同僚の夫は、インドア派の自分と違って、かなりのアウトドア派。計画なしにテントやアウトドアグッズを持ってキャンプ

に出掛けたりすることもあるそうだ。

今度は熊本県に住む祖母のところへ、ゆっくり会いに行きたいと思っている。

会社のためにできること

学生時代に参加した企業説明会は今と違って、若手社員との座談会というものはなく、会社の説明だけだったため「何だかお堅い会社だな」というイメージだった。しかし、当時熊本から避難して鹿児島へ帰ってきていたことに関して、社員から気遣いのある言葉をかけてもらい「1人1人が災害に対して真剣に考え、土木だけでなく人のことも想っている会社なのだ」と感動したことを覚えている。

あれから数年、学生から社会人へと立場を変えた福村さんは、現在、説明会のプログラムに含まれている若手社員との座談会に参加している。自分も誰かの"この会社に入社するきっかけの一部"となるような存在になれたらいいなと思っている。

会社説明会に加え、夏季にはインターンシップを3日から1週間行っている。インターンシップではCADの使い方や現場踏査、ドローンや光波を用いた測量を体験してもらい、こちらでも座談会を行っている。座談会では、仕事内容や社会人としての過ごし方、就職活動に対するアドバイス等を行うことで、参加してくれた学生の就職に対する不安を少しでも和らげることができればと考えている。

コンクリート強度調査

未来の後輩たちへ

この業界は、仕事をしながら学ぶことが多く、どれだけ経験値を重ねても、知らないことを知っていく楽しみが絶えない。得た知識1つ1つが繋がって、次の業務に活かせた時の喜びはとても大きい。

「土木を学んでいなかったから、できるか心配」と不安に思うかもしれないが、学生時代に土木を全く勉強していなくても、働きながら勉強ができるため、難しく考えなくていい。むしろ土木を学んでいた人よりも、多くの新しい知識が増えて、楽しみが大きいと自分はポジティブに考えている。

ただ、「学ぼうとする力」が備わっていないと、絶対に続かない仕事である。学生のうちにこの力だけは身に付けて、ぜひ建設コンサルタント業界で羽ばたいてほしい。

大学時代に経験した震災も、自分の進む道を決めるプラスとして捉え、慎重に確実に歩みを進めている素敵な女性技術者でした。

お忙しい中、取材にご協力いただき感謝します。

本社社屋（同社ホームページより）

【会社情報】

鹿児島土木設計株式会社
代表取締役社長：篠原 誠
創業：昭和43年6月10日
社員数：65名
主な事業：構造物の設計・維持施工管理、測量、地質調査、補償コンサルタントなど
本社：〒891-0115　鹿児島市東開町12番地10
TEL:099-260-6262／ FAX:099-260-7456
https://www.kado.co.jp/